

生成型AIと推論型AIを使った調達支援サービス(LGWAN-ASP対応)

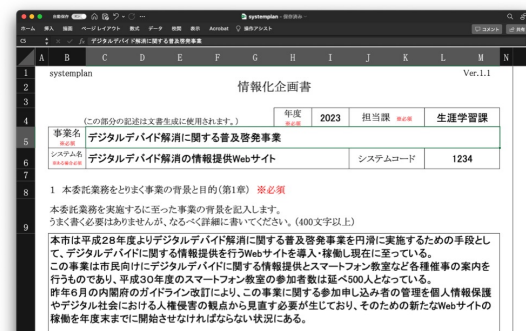
プロキュアテック

procureTech

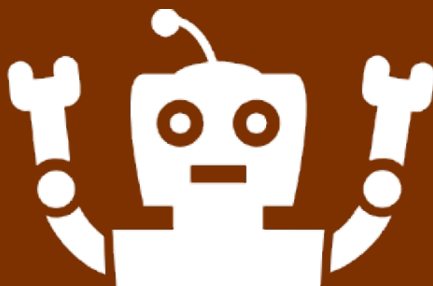
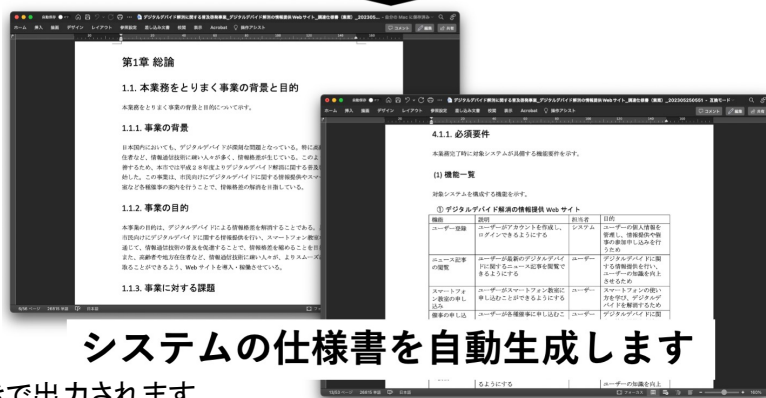
調達仕様書やプロポーザル審査表を AIで自動生成します

プロキュアテックの特徴

- 職員が苦手としている調達仕様書やプロポーザル審査表を自動生成します。
- 簡単なメモ書きから、AIが文意を酌み取り、調達仕様書の形式に書き換えます。
- システム導入の仕様書の場合は、システムの機能要件、非機能要件も自動的に生成・提案します。
- システムの新規導入だけでなく、毎年の運用・保守業務の仕様書も生成可能です。
- システムを用いない委託業務(コンサルティング業務、事務処理業務)の仕様書も生成可能です。
- 調達仕様書の他に、情報提供依頼書(RFI)、見積費用総括表、プロポーザル審査表も自動生成します。
- WordやExcel形式で生成するため、職員がその後追記・修正することもできます。
- 事業者からの提案書(PDF)とプロポーザル審査表を読み込むことで、事業者の提案を自動的に審査します。審査は項目ごとに行われ、審査コメントが評点付きで出力されます。

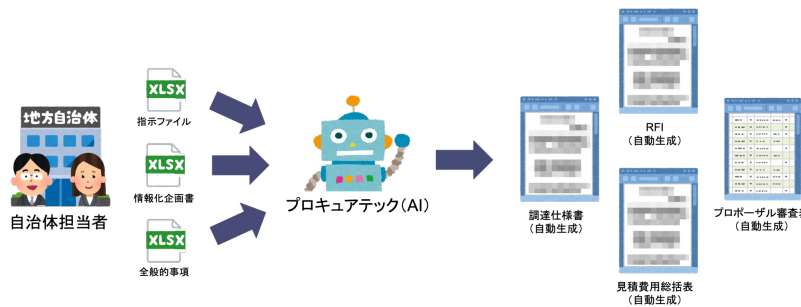


「解決したい課題」を書くだけで



仕様書自動作成機能

「こんな事業をしたい」や「こんな課題を解決したい」
「こんなシステムが欲しい」などのメモ書きから、その文意を酌み取り、
生成型AIで仕様書の文面を自動的に生成します。

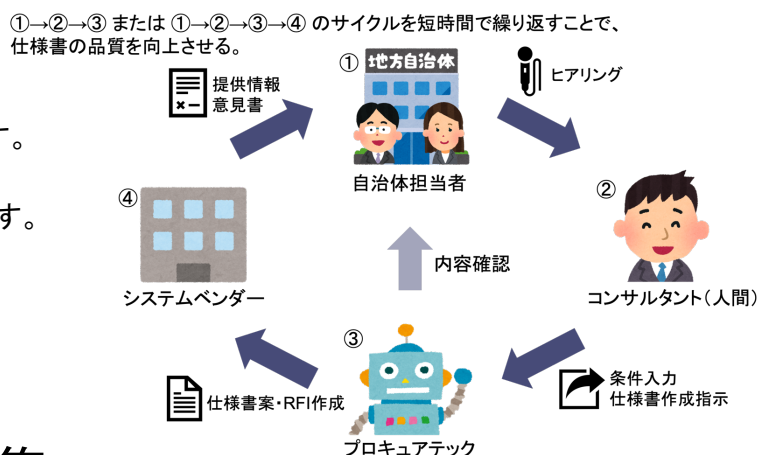


「そもそも最初に何をすればいいのかも解らない」という場合は、プロキュアテックに最適化されたAIチャットボットが職員の悩みに答えたり、励ましてくれます。

※ 仕様書だけでなく、RFI(情報提供依頼書)や見積費用総括表、プロポーザル審査表などの書類も併せて作成することができます。調達事務の初動を早めることで、職員の負担を軽減させます。

自動作成した仕様書を元に、RFIにより多くの事業者から意見を求め、その意見を反映しながら、仕様書の品質を高めていきます。
この方法であれば、入札不調のリスク軽減も、予算の適正化も、ベンダーロックインの排除も実現できます。

※ 複数の事業者に対して、同じ条件でRFIを行うことで、特定の事業者に偏った事務を排除し、調達事務の中立性、公平性を維持させると同時に、事業の実現性も確保します。



AIとの対話による文章編集

自動生成された文章をAIとの対話でさらに編集、加工することができます。



※ 選択した文章をAIに書き直させる「AI文章校正」機能

※ 関連するファイルを検索して、質問に答えてくれる「AIアシスタント」機能

開発元: Hiro KAWAGUCHI Laboratory
<https://www.procuretech.jp>

➤ 製品に関するお問い合わせ
E-mail sales@procuretech.jp

■本資料は、2025年4月現在の情報を基に作成されています。最新の情報は当社Webサイトをご参照ください。■プロキュアテック/procureTechはHiro KAWAGUCHI Laboratoryの登録商標です。■その他、本資料に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。■本資料に掲載されている画面および画面設定例は、解説のためのイメージ図であり、実際の画面とは異なる場合がございます。■本資料に記載の内容は予告なく変更することがあります。予めご了承ください。

お問い合わせ先